

## 大人世界の入口で

信時哲郎

大学の教壇に立っていると、いろいろな局面で常識知らずの学生に出くわし、驚かされることがある。が、そこで学生たちの非常識を、今ひとつ責める気になれないのは、自身もかつて似たような非常識な学生で、そんな学生にも大人世界の常識を教えて下さった大輪先生の記憶が頭に残っているからだ。

先生に最初に教えて頂いた大人世界は、原典購読の授業だった。高校までの古典の授業とは違って、現代語訳をするのとも感想文を書くのとも違う国文学研究の世界を見せて頂いた気がする。

大学というものがようやくわかりかけてきた頃、マスコミで働いている方との交流会を用意して頂いた。これは大人世界を見せて頂いた第二の体験だと言えるだろう。

学部を卒業すると、果たしてマスコミ界に就職することも、また大学院に行くこともなく、カナダで遊学生としての日々を過ごすこ

ととなったのだが、この期間中に国文学を勉強しようという思いがようやくかたまり、一年遅れで大学院に進学することになった。が、研究者世界の入口で相談に乗って頂いたのは、またしても大輪先生なのであった。

帰国して大学院の学年が進むと、今度は研究機関への就職が気になってくるものだが、そんな折に、就職に際してもお骨折り頂いたのは、またしても大輪先生なのである。

こう書き出してみると、改めて節目節目に先生の叱咤激励があつたことに気付かされるのだが、その激励に十分なお返しができていないのは、誠に恥かしい限りである…。

などという私が、イマドキの学生たちの常識知らずを責められるはずがない！私がついている限りの大人世界の常識を、できるだけ丁寧に教えること。先生のご恩に報いるたぬにできるのは、これくらいしかないのではないかと思ひながら、今日も学生たちからのメールに返事を書いている。

(一九八六年卒業・院修了/甲南女子大学)

